Woman of YAMAGATA

これからの「仕事」の話をしよう

平成30年度 山形大学 基盤共通教育の授業

「キャリア形成とワークライフバランス（山形から考える）」探究ノート

《 講義内容 》

01	「モラトリアム」期間を有意義に	藤岡 久美子	学術研究院教授（地域教育文化学部担当）
02	しなやかな生き方を見つける	宇津 まり子	学術研究院准教授（人文社会科学部担当）
03	私のセブンルール	木戸 祐	(株)まちづくり鶴岡代表取締役社長
04	人生の4つの原動力	伊関 千書	学術研究院講師（医学部担当）
05	動いた先に未来がある	上條 智広	(株)ジョインセレモニー 婚礼営業課主任
06	居心地の良い場所を出る	中坪 あゆみ	学術研究院助教（農学部担当）
07	今しかやれない道を選択	山本 美奈子	学術研究院（学士課程基盤教育機構担当）
08	キャリアをつなげる	高澤 由美	学術研究院助教（理工学研究科担当）
09	マルチステージの生き方	小倉 泰憲	学術研究院教授（理学部担当）

山形大学 男女共同参画推進室

講義 1　Woman of YAMAGATA

「モラトリアム」期間を有意義に

10月18日（木）14:40〜16:10

講師

藤岡 久美子

学術研究院教授（地域教育文化学部担当）

Profile

40歳代
茨城県出身

専門は発達心理学。幼児の思考やコミュニケーションについて研究していた。現在、学部の事情による担当科目の変更に合わせて、研究が"広く浅く"なっている。

● 就職した動機と仕事の内容

心理学専攻の博士課程に進んだ場合の修了後の就職先はたいていの場合、大学であるため。仕事の主な内容は、地域教育文化学部での心理学の授業。

● これまでの道のり

大学院に進学することは、高校3年生の時から漠然と考えていた。進学先の大学には、当時、心理学専攻の大学院は5年一貫性の博士課程しかなかったため、２７歳まで学生を続けることに少し抵抗を感じつつ、院に進んだ。大学のポストを探していた時、山形は遠く感じて最初は躊躇したが、職を得ることが重要なので、応募し採用された。

● ワーク・ライフ・バランス

それなりにバランスは取れていると思う。

● 夢や目標

職業上のアイデンティティを再構成する。

● 学生へのアドバイス

色々なことに興味を持ち、取り組み、大学生という「モラトリアム」期間を有意義に過ごして下さい。

講義ノート
アイデンティティに関する質問の一部（「全くそのとおり」6〜「全然違う」1まで選択）
◇私は今、自分の目標を成し遂げるために努力している。
◇私は、「こんなことがしたい」という確かなイメージを持っている。
◇私はこれまで、自分について自主的に重大な決断をしたことはない。
◇私は、親や周りの人の期待に沿った生き方をすることに疑問を感じたことはない。
◇私は一生懸命に打ち込めるものを積極的に探し求めている。

Q 大学院進学に親が賛成だったか。ワーク・ライフ・バランスの独自の工夫はあるか。

A 特に反対はなかった。経済的負担をかけないように奨学金を利用した。オンとオフを分けるために大学と離れた場所に引っ越し、続けられる趣味を持った。

講義の振り返り

エリクソンのアイデンティティ、モラトリアムの考え方を学んだ。現在まで、自分とは何か、何をしたいのか決まらずに過ごしてきた。あせりを感じていたが、それが当然のことだと認められた気がして安心した。

モラトリアムの時期を充実させることは大人になる上で大切なことなのだと、背中を押された気がした。「真剣な自己探求」としてのモラトリアムの時期を過ごしたい。

自分の将来のことがまだまだ決まっていなくて焦っていたが、同年代だけでなく、どの年代の人たちもアイデンティティの確立が課題だと知り、少し安心した。

アイデンティティを確立する上で、現在だけでなく過去や未来に対する見方も要因になっていることを知った。大人の世界の現実を聞いて、大人の段階へと進む不安と好奇心が強くなった。

講義 2　Woman of YAMAGATA

ロールモデルでなく自分を貫く

11月1日（木）14:40〜16:10

講師

宇津 まり子

学術研究院准教授（人文社会科学部担当）

Profile

40歳代
東京都出身

19世紀アメリカ文学に興味を持ち、1970年代のフェミニストたちが「発掘」したケイト・ショパンという作家を研究し、多様な視点から見直そうとしている。

● 就職した動機と仕事の内容

「就職しない」ということは考えたことがない。受験勉強を始めた頃から英語に興味を持ち、大学で専攻していたアメリカ文学をもっと学びたい…という感じで、興味・関心を追ううちに大学教員になった。仕事は授業と学務が主な内容。

● これまでの道のり

大学教員になることをずっと目標にしていた訳ではない。教員免許の単位を取ったり、塾や予備校で、あるいは家庭教師として教えたり…と、「できること」はなるべく増やしておくように努力していた。就職がうまくいったのは、運だとしか思えない。

● ワーク・ライフ・バランス

独身で子どももいないが、バランスは悪い。週末など、職場には来なくても仕事はしているし、職場とは関係のない学会の仕事や役割などもある。かといって、それで悩んではいない。

● 夢や目標

体の老化を感じ始めた頃、同年代の友人たちが早めの退職をし始め、実はとても羨ましく感じている。日々のバランスの悪さは、早期に辞める、あるいは別の方向に向かうという時差を使った転換でも修正できるのかもしれないと考えさせられている。

● 学生へのアドバイス

私が大学四年生の時にバブルが崩壊し、雇用状況は大きく変わった。みなさんの世代では、非正規の急増など、また大きく変わっている。私自身がそう感じていたように、「昔の人」の体験談は、ますます距離感を増しているのではないかと思う。ロールモデルを探すのではなく、状況を見る目を養って、しなやかな生き方を見つけて欲しいと思う。

Q 状況を見る目を養うのには、どうすればよいか。

A 新聞で労働関係の記事を見ておくことが大事だ。ＡＩなどで仕事は変わっていく。ロールモデルを探すのでなく、自分の価値観を作った方がよい。

講義の振り返り

時間的・金銭的投資を考えると、大学教授になるのは相当な決断が必要だと感じた。講義の中で、「ロールモデルではなく自分を貫く」というフレーズがとても心に響いた。私は、他人からの評価や考え方に流されやすいので、少しでも変わりたい。

高校時代は何となく過ごしてきていたが、先生は高校時代から「自分の生活は自分で」という価値観があって、自分も見習わなければと思った。

今まで漠然と、大学に行ったら就職できるだろうという考えを持っていたが、厳しい現実を知ることができて本当に良かったと思う。一番心に残ったのは、好きなことがあったからこそ、それに向かって真剣に打ち込むことができたということだ。

先生は新聞を読み取る力が大事になると仰っていた。自分はあまり新聞を読んでこなかったため、まだきちんと読み取ることができていないので、この授業の新聞レポートを通して大事な情報を得られるようになりたい。

私のセブンルール

11月8日（木）14:40〜16:10

講師

木戸 祐

(株)まちづくり鶴岡代表取締役社長

Profile

50歳代
鶴岡市出身

荘内銀行より出向し、まちづくり鶴岡 代表取締役社長として4年目。夫は他県で単身赴任、子ども2人と同居。両親の介護と出産、子育ての「ダブルケア」を実践中。

● 就職した動機と仕事の内容

親から勧められるままに荘内銀行に就職。現在は、銀行から出向の形で、株式会社まちづくり鶴岡の代表取締役として勤務。

● これまでの道のり

銀行入行後、主に本部で勤務、入行10年目で初の営業店勤務となり、窓口営業から始まり、外訪担当、融資担当、法人担当などジョブローテーションを経験。この経験が後々のキャリアの礎になる。

その後、山形市、仙台市への転勤を経て、縁あって結婚。地元鶴岡で2人を出産。子育てと実父母の介護と仕事を両立。現在は、銀行業務から会社経営となり、鶴岡市唯一の映画館運営で実働中。

● ワーク・ライフ・バランス

振り返ればバランスなどを考える間もなく、まず自分が頑張ればと肩に力を入れてやってきた。

これからはやりがいのある仕事を、女性としての幸せも感じつつ充実した生活、もっと楽に両方をこなしていく女性のクオリティオブライフ実現と、それを支えながら自分自身もワーク・ライフ・バランスを実現する夫、そしてそれを見て育つ子どもという状況が実現出来たらいいと思っている。

● 夢や目標

現在の職場である映画館が、地域のお役に立つようにしていきたい。

● 学生へのアドバイス

与えられたチャンスを積極的に活かす。目の前の仕事に一所懸命に取り組む。

Q 「私のセブンルール」とは

A
1 自分で1度はやってみる
2 正しいことを正しくやる
3 自分の仕事を線引きしない
4 映画を出来るだけ観る
5 疲れたら寝る
6 夫と仲良く
7 町内会に積極的に関わる

講義の振り返り

とてもパワフルな女性で、話を聞いているだけで元気をもらえた気がした。セブンルールの「自分で１度はやってみる」と、「正しいことを正しくやる」というルールが、自分には響いた。また、「正しくやることで、部下も自分も守ることができる」という言葉は、上司としての責任感を感じ、格好いいと思った。

育児と仕事と介護の３つを両立させるのは大変だったはずなのに、楽しんでいるような感じがして、自分もそうなりたいと思うような方だった。夫は一番身近な他人だから、夫と仲良くできないと、人付き合いが上手くできないというのも、そのとおりだ。家族の中から男女差別をなくし、互いに支え合い、互いに尊敬できるパートナーを作っていこうと思った。

仕事を通して様々なことを学び、いつか何かの役に立つような知識を増やしていくことは、キャリア形成にあたって大事なことだと思った。

人生の4つの原動力

11月22日（木）14:40〜16:10

講師 **伊関 千書**
学術研究院講師（医学部担当）

Profile
40歳代
神奈川県出身

病院での診療、医学生や研修医教育のほか、認知症や水頭症に関する臨床研究、疫学研究。夫と3人の子どもと福島市在住。福島県内と山形県内を駆け巡っている。

● 就職した動機と仕事の内容

神経学が魅力的だったから。診療、研究、学生教育、医局の仕事も。

● これまでの道のり

もう一歩考えを深めたい、知的冒険をしたいと大学院へ。子どもがいるから、現場でないところで考えても勝負しやすい神経学を選んだというのもある。

● ワーク・ライフ・バランス

こんなに自分を求めてくれる人がいるのかと感動（子どものこと）。それに応えられない多忙な仕事。結局、これが私の両輪だと気づいた。

遠距離通勤しながらの子育ては、母やベビーシッターさんなど、いろいろな人の協力で両立している。子育ては自分ではない人の人生に責任を持つことだが、自分の人生の復習、自分を熟成できる時間になった面がある。

４輪駆動の自家用車のように、「愛」「仕事」「知」「家庭」の4つが自分の人生の原動力になっていて、どれか一つではなく、４つのバランスが大事だと考えている。

● 夢や目標

知的冒険のできる医学の海は無限。もう一歩深く、遠くへ行きたい。若い人にも夢をもたせられる診療、研究、教育をしたい。

ネパールにおける高齢者と認知症について、日本と比較して研究を続けてきている。

● 学生へのアドバイス

遠回りにも意味はある。

今も遠回りしていて、たどり着かなさがいいと思っている。自分が計画したことでないこと、遠回りしたときに拾い物があり、面白いと思っている。

Q ストレスや仕事がいやになった時の対処法は何か

A 仕事のストレスは家庭で、家庭のストレスは仕事で解消。仕事がいやな時は、家庭や勉強（学会での深い刺激）で癒す。違う仕事をしてみるのも良い。

講義の振り返り

四駆のお話で、自分の原動力をしっかり持っていて格好のいい女性だと思った。大変そうなことでも明るく受け止めていて、自分もそんな風になりたいと思う。

育休中に仕事をしたいと思ったと聞いて、本当に研究や仕事に情熱を持っている先生だと思った。それぐらい自分の好きなことにエネルギーを費やせる生き方があるのは、とてもぜいたくでうらやましいと思った。また、「育児は自分の子ども時代を復習すること」など、育児の視点が印象に残った。育児はつらくて自分の時間を奪われてしまうというイメージがあったが、育児の面白さを知ることができた。

今回の先生のお話の中で一番大切だと思ったのは、就職した状態をゴールだと思わないようにするということだ。遠回りすることによって、何か自分にとってプラスになるようなことを探し、拾いながら生きていくことは、毎日をより楽しくしてくれそうだと思った。自分が一番手強いということも、納得させられた。

動いた先に未来がある

11月29日（木）14:40〜16:10

講師

上條 智広

(株)ジョインセレモニー

Profile

30歳代
神奈川県出身

パレスグランデール 営業部婚礼営業課主任。山形市男女共同参画審議会委員。やまがたイグメン共和国広報大臣。妻と娘２人の４人家族。

● 就職した動機と仕事の内容

自身の結婚式をパレスグランデールで挙げ、その感動を忘れることが出来ず転職を決意。新郎の立場からウェディングプランナーへと転身、12年目を迎える。新郎新婦の想いを引き出し、一生に一度の結婚式をお手伝いする。

● これまでの道のり

大学卒業後、神奈川県から山形県へIターン。学生時代に海外へ一人旅、インターンシップなどを経験。「自分は何がしたいのか」を求め、地球の裏側キューバへ。しかし、何も見つからず帰国。国内を回る中、山形に縁があり若者支援のNPOに従事。その後、パレスグランデールに転職。

● ワーク・ライフ・バランス

土日は基本仕事で、子供との休みがほぼ合わない為、PTA役員を積極的に引き受け、子供の学校生活へ関わるようにしている。また、絵本の読み聞かせボランティアを行うことで、先生や地域との繋がりを強くするよう心がけている。

● 夢や目標

娘と共にバージンロードを歩くこと。
結婚式を担当したご夫婦のお子様の結婚式をプランニングすること。

● 学生へのアドバイス

人と同じこと＜人と違うこと
希少性の高い人が、今後の社会で必ず戦力になる。それを探す時間が学生時代だと思う。興味があるならまず行動。じっと考えている時間はもったいない！動いた先に未来がある！

Q 男性が育児に参加するために大切なことは何か。

A 男性がやってあたり前という風潮になるといい。今は子育てをしている男は格好良い。ファーストペンギンになってみよう。

講義の振り返り

自分にはやりたいコトの具体的なビジョンがなくて、どうしたら良いのだろうと思っていた。自分を知るために自分なりに模索するのは、答えが見つからなくてもとても有意義なものになるのだと感じた。

何かをしたいという願望ではなく、何かを絶対に成し遂げるという意志を持って行動するということが大事だと学んだ。

「やりたいコトは動いた結果に残るコト」いう言葉がとても印象的だった。大学卒業後の具体的な進路はまだ決まっていない。時間を有効に使ってアクションを起こし、参加できる活動にはできるだけ参加しようと思う。

「父親が家事や育児に参加するのが当たり前になれば良い」という言葉が印象的だった。自分が誰かのモデルになれるように、自分で考え、行動することを身につけていかなくてはと思った。

居心地の良い場所を出る

12月13日（木）14:40〜16:10

講師

中坪 あゆみ

学術研究院助教（農学部担当）

Profile

30歳代
岩手県出身

2年前にプロジェクト教員として着任。現在は助教。山形県庄内地域における食料自給圏「スマート・テロワール」形成講座のプロジェクトに取組んでいる。

● 就職した動機と仕事の内容

山形大学へは、2016年4月開始の寄附講座プロジェクト教員を募集していることを知り、応募。2016年4月より農学部寄附講座食料自給圏「スマート・テロワール」形成講座のプロジェクト教員。耕畜連携・農工一体・地産地消を基盤とした新しい農村社会　食料自給圏「スマート・テロワール」の形成に向けて、地域の農業者さんや企業さんにご協力いただきながらプロジェクトに取り組んでいる。

● これまでの道のり

子供のころの夢は獣医師。「動物のお医者さん」を目指す獣医学科への入学は果たせなかったものの、『獣医』の名がつく獣医畜産学部で、「地球のお医者さん」を目指すことに。学部卒業後は、環境コンサルか地方公務員かと考えていたが、卒業研究に携わるうちに研究の面白さを知り、修士課程、博士課程と進学し、2011年3月博士（農学）取得。学位授与式は、まさかの2011年3月11日。その後、北里大学にて1年9か月ポスドク生活を送り、2013年1月より北里大学獣医学部助教（嘱託）。その後、2014年4月より岩手県環境保健研究センター臨時職員、2014年10月より水産総合研究センター契約職員、2016年4月より現職。未婚、子供なし。紆余曲折な人生の途中。

● ワーク・ライフ・バランス

『毎日決まった時間に出勤し、決まった時間に帰宅する』『深夜労働しない』『休日は完全にスイッチOFF』これが完璧にできればと思うが、なかなかそうはいかない。

● 夢や目標

研究者や大学教員として、研究成果や活動成果が移り行く時代の形に合わせて、実社会の中で意味のあるものにしていきたい。

● 学生へのアドバイス

自分が自分らしく幸せなことが一番。時には、まったく違う分野に触れることも必要。

Q これまでで一番重要な選択は何か。夢を実現するためのアドバイスは何か。

A 同じ環境、居心地の良い場所から出た時に、私の世界が広がった。先は見えないが、今ある現実に向き合い、一生懸命こなしていると夢に辿り着くのかもしれない。

講義の振り返り

一番のポイントは、「いつもとは違う場所で違うことをする」ことだ。居心地のよい場所に長い間留まっていても新しい発見はないので、行き詰まった時や、何をしたらよいのかが分からなくなった時には、このことを思い出して実践してみたい。

居心地のよい場所にずっといようと思えば居ることができるのに、あえて自分からその選択肢を取らない先生の決断はすごいと思った。外に出て、違う何かを見て刺激を受けることの大切さを学ぶことができた。

社会の変化が目まぐるしい現代の中で、先のことばかり考えずに、とにかく今ある現実にしっかり向き合うことの大切さにも改めて気付くことができた。柔軟に物事を考える力や、社会の需要に対応できる力が必要になってくると強く感じた。

山形大学の研究者として働くからには、山形県の役に立つようなことを研究するべきだ、という考え方は立派だと思った。

今しかやれない道を選択

12月20日（木）14:40〜16:10

講師

山本 美奈子

学術研究院（学士課程基盤教育機構担当）

Profile

50歳代
石川県出身

専門はキャリア心理学、組織心理学。キャリアデザインやインターンシップの授業、学生の就職支援などを担当。家族は夫と子ども2人。単身赴任で山形市在住。

● 就職した動機と仕事の内容

自分が歩んできたキャリアが「どのように生きるのか」「どのように働くのか」「どのように学ぶのか」であり、山形大学のキャリア教育の基本的考え方と合致していた。

● これまでの道のり

20代前半に看護師として集中治療室に勤務し、人の死に接し「どのように生きるのか」を痛感。その後、市役所で職員の健康管理に携わり1,000名以上の保健指導を通し、人の考えや行動の背景には組織に共通する心理的な課題があると感じ、大学院に進学。大学院では、組織心理を研究しヘルシーカンパニー支援で学位取得。病院勤務の頃から研究に関心があり、大学院で研究の面白さに気づき研究者を選択した。

● ワーク・ライフ・バランス

山形に単身赴任し、生活環境が大きく変化した。初めて200名以上の大規模授業を担当し悪戦苦闘してきたが、学生から学ぶことが多い。子育てと仕事を両立し大学院で学ぶため、夫に理解と協力を求めた。その子供達は現在青年期に入り、自分を確立し自立（自律）しつつあり、家族との関係性も変化した。

● 夢や目標

新たな環境で、与えられた職務（授業、研究、キャリアカウンセリング）に最善を尽くすことが今の目標。

● 学生へのアドバイス

体験から学ぶことが多い。話たり行動することで、捉え方や感じ方が変化し、自分の可能性が広がる。いくつになっても学び続けることができるし、学びたいと思った時がスタートで、終わりはない。既成概念にとらわれないことが、自分のキャリアデザインを考えるうえで重要。

Q 既成概念にとらわれず、自分らしく生きるためにどうすればよいか。

A 得意なこと（能力・技能）、好きなこと、大事にしている価値観など、自分らしさについて考えてみることが必要。
逆に、嫌だと思うことや違和感からも自分らしさが分かる。

講義の振り返り

「４つのＬ」（労働、愛、学習、余暇）という話が興味深かった。自分自身のキャリアを語る上で、仕事だけに焦点を当てるだけでなく、学びや余暇、家庭などの時間も大切にしなければならないと思った。お話を聞いて、私は常に安定した環境を選びがちなので、「今しかやれない道を選択する」決断力はすごいと感じた

既成概念にとらわれないようにするためには、自分の好きなこと・嫌いなことなどをまとめてリストにして、自分の軸を探すことが有効だということが分かった。

大学院進学を諦めないことを選択肢に入れようと思った。パートナーと何でも言い合えるような関係をつくることが大切だと仰っていたので、自分から働きかけてそうなれるようにしたい。

欲求が、人から愛されたい→自分を愛したい→人を愛したいというように変化し、それによって精神の安定につながることを理解できた。

キャリアをつなげる

1月17日(木) 14:40〜16:10

講師

高澤 由美

学術研究院助教(理工学研究科担当)

Profile

40歳代
秋田県出身

専門は都市計画、地域政策。サステイナブルな地域づくりについて、景観や観光、ネットワーク形成など多様なアプローチで研究活動を行う。家族は夫と子ども二人。

● 就職した動機と仕事の内容

大学は幅広く様々なことにチャレンジできる場だと思う。そこに魅力を感じてアカデミックの世界で働きたいと思うようになった。山形大学(大学院ものづくり技術経営学専攻、学部建築・デザイン学科担当)で教育・研究、及び社会貢献活動に従事。

● これまでの道のり

博士課程以降は将来に対する不確定要素が多かったため、長期的なプランを計画することは難しい状況にあった。思い返すとその時々にベストorベターと思われる選択を繰り返してきた結果、現在に至る。

● ワーク・ライフ・バランス

現在は子育て中でライフの時間を優先する場面が多い。でもワーク(調査・研究)の時間も増やしたいのが本音で悩ましいところだ。限られた時間でいかにパフォーマンスを高められるかが課題。そのために体調管理(家族も含めて)、感情管理(！)、環境整備を日々試行錯誤中である。

● 夢や目標

持続可能で豊かさを感じられる社会づくりに研究・教育を通して貢献すること

● 学生へのアドバイス

居心地の良いところから抜け出して新しい場所に飛び出す勇気を！いろいろなことにチャレンジしてください。自分をマネジメントすることを意識してトレーニングを若い頃から心がけていれば、将来のワークライフバランスに役立つと思う。

授業ノート　＊紹介いただいた本:「タイム・バインド〜働く母親のワークライフバランス」ホックシールド他、「仕事と家庭は両立できない？」アン＝マリー・スローター、「結婚と家族のこれから〜共働き社会の限界」筒井淳也

Q 選択を後悔したことはないか。女性が活躍するために必要なことは何か。

A 後悔はしたことがない。違う道を選んだとしても、必ず後悔すると思うので。
女性のための制度は整ってきているので、ロールモデルが増えればよいと思う。

講義の振り返り

自力で大学に進学したり、旦那さんの転勤に合わせて転職したり、様々な困難を自分自身で乗り越えて、とてもパワフルな方だと思った。大変なことがあっても研究を続けていて、本当に研究が好きなんだと感じた。

仕事と家庭の両立は、女性だけの問題ではないという言葉を聞いて、やっぱり家庭は家族で作るものであって、互いに相手を尊重し合うことで成り立っているのだと思った。「どう生きたいのか、何が幸せか」という言葉は他の講義とも共通していて、人生を楽しく生きるコツなのかと思う。

女性に限らず、親のキャリア形成と子育てのバランスの取り方がとても難しいことが強く伝わってきた。ライフステージや局面に応じて、良い選択ができるように将来していきたい。「ベスト・ベターな選択をしても、後悔は必ずするもの」というお話は納得できた。

講義 9　Woman of YAMAGATA

マルチステージの生き方

11月15日（木）14:40〜16:10

講師 **小倉 泰憲**

学術研究院教授（理学部担当）

Profile
50歳代
岩手県出身

専門はカウンセリング心理学と音響工学

これまでは「教育」「仕事」「引退」という3段階の生き方・働き方が多く見られた。

しかし、21 世紀は技術革新による急激な変化をはじめ、政治・経済の不確実性が増し、今までのような3段階を前提とした長期的な計画は困難な時代になった。また、今の大学生の平均寿命は100歳ぐらいになると予想されている。この二つから言えるのは、長く生きる間に大きな転機が複数回訪れ、多段階の生き方・働き方をするということだ。皆さんはこれまでとは違うライフデザインと転機への心の準備が必要になる。

（講義の詳細は、平成29年度発行の探究ノートをご覧ください。）

探究学習で学ぶキャリア形成

【授業名】
山形大学　基盤共通教育
「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス（山形大学から学ぶ）」

【授業の目的】
①ワーク・ライフ・バランスについて考え、自分のキャリア・ビジョンを描く。
②男女共同参画社会を理解し、課題を考える。
③新聞学習で社会人基礎力を身につける。

【授業の計画】
○ゲスト講師の授業は、講義、質疑、まとめで構成。
　講師への事前連絡・進行・質疑などを学生が担当。
○グループごとに課題探究学習を行う。
○新聞切抜きレポートに取組む。
○小白川キャンパスにある保育所の見学学習。

【学生の感想】
★「社会で活躍する女性」のたくましさ、しなやかさを感じた。家庭と仕事を両立して活躍している姿に勇気をいただいた。
☆まだ将来の方向性が定まっていないので貴重な授業だったし、他の学生の意見を聞けて良かった。質問や話し合いも活発で充実した時間だった。
★新聞の大切さを知り、新聞レポートを通して大事な情報を得ることができた。
☆人生100年時代で、嬉しい反面、不安もある。大学在学中に、自分を向上させる必要があると感じた。

男女共同参画とは

「男女共同参画社会基本法」

（平成十一年六月二十三日法律第七十八号）

第一章総則（目的）第一条
・男女の人権の尊重
・社会経済情勢の変化に対応できる豊かで活力ある社会を実現する緊要性
・基本理念を定め、並びに国、地方公共団体及び国民の責務
・施策の基本となる事項を定めることにより、男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進

山形大学は、「男女共同参画社会基本法」の理念に基づき、男女共同参画のために大学が担うべき役割と責任を自覚し、「山形大学男女共同参画基本計画」（平成22年）を策定し、男女共同参画を推進しています。

性別にかかわらずに、すべての人が個性と能力を発揮できる世の中がダイバーシティ社会です。我が国では男女共同参画基本計画や科学技術基本計画等の下、男女共同参画や教育分野におけるダイバーシティ推進を図っています。山形大学は平成27年度に文部科学省のダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）に採択され、米沢栄養大学、大日本印刷株式会社研究開発センターと連携し、ダイバーシティ環境の実現をめざしています。

この「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」の授業は、男女共同参画を担う次世代を応援するため、男女共同参画推進室が担当しています。

平成31年3月25日発行
発行　山形大学男女共同参画推進室
〒990-8560　山形市小白川町1-4-12
TEL　023-628-4937
Mail　y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
編集　准教授　井上榮子